Actiphy

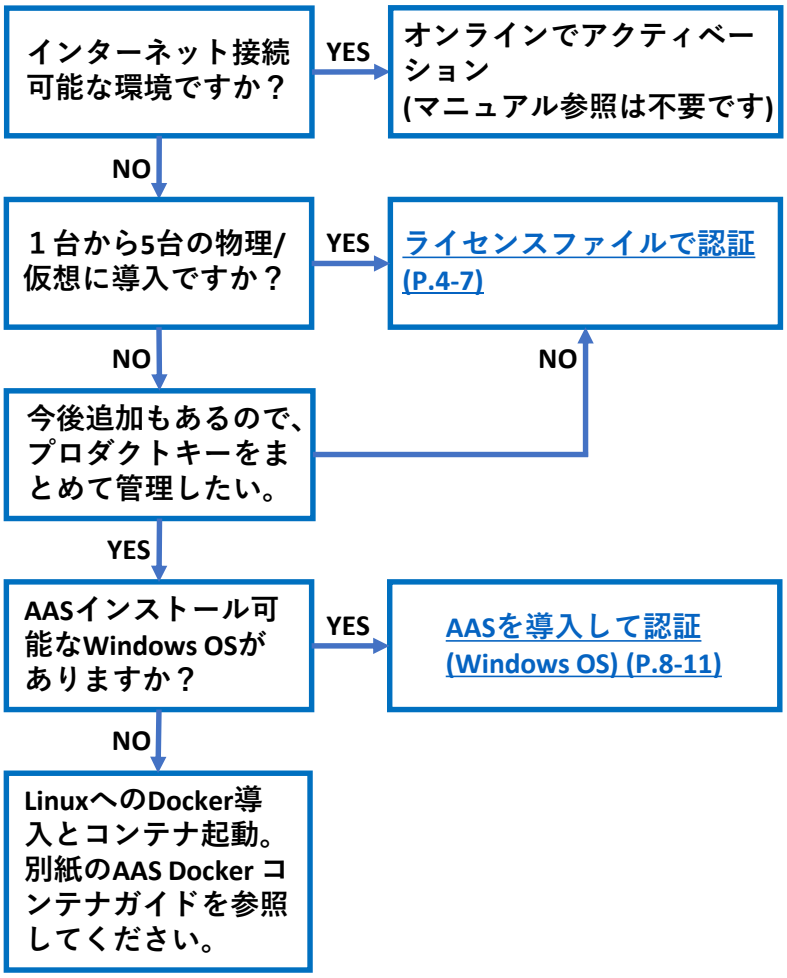
製品アクティベーションガイド

ActiveImage™ 2022 PROTECTOR Linux

本ガイドの効率的な使用方法

本ガイドでは、オフライン（インターネット接続できない環境）でのActiveImage Protector 2022 Linux導入に必要な、製品のアクティベーション方法について解説しています。
すべての内容を確認しても問題はありませんが、必要な部分だけを参照することで効率的に理解可能です。

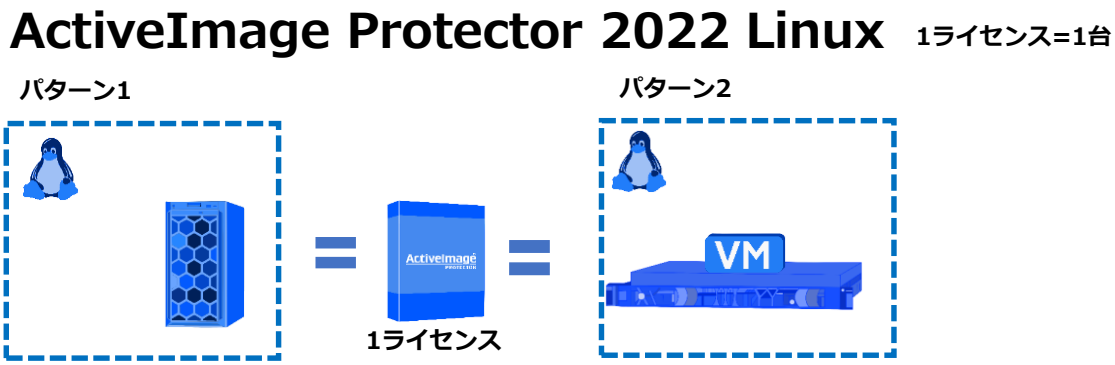
導入環境別フロー　（該当するページを参照してください)



※ActiveImage Protector 2022 Linuxでは、アクティベーションが完了するまでインターフェイスは英語になります。各種方法によるアクティベーション完了後、P.7を参照して日本語化をおこなってください。

はじめに

本ガイドはActiveImage Protector2022シリーズ導入時に必要となる、製品アクティベーションについて記述しています。所持しているActiveImage Protector 2022シリーズに対応した、各ガイドを参照してください。
またオンライン環境の場合には、基本的には自動的にインターネットを経由して製品のアクティベーションがおこなわれるため、アクティベーションのための作業は特に必要ありません。
※このガイドでは、すべてroot権限で設定をおこなっています。



1ライセンスで、Linux Server OSを物理、仮想問わず１台バックアップ運用ができます。

アクティベーションのタイミング

ActiveImage Protector 2022 Linuxをインストールして、アクティベーションしたタイミングで、アクティベーションされます。1ライセンスで、1台のバックアップをおこなうことができます。

アクティベーション方法

インターネット接続可能環境（オンライン環境）

特にアクティベーションの作業は不要です。自動的にインストール後のタスク作成時にアクティベーションされます。

クローズドのネットワーク環境（オフライン環境）

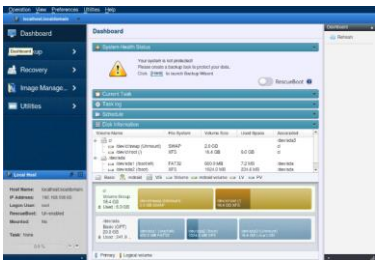
ライセンスファイル方式(少数台の購入向け)

プロダクトキーを使用してライセンスファイルの入手をおこないます。1台につき1ファイルでアクティベーションします。複数台の場合には、所有ライセンス数分のライセンスファイルを使用します。

AAS方式(Actiphy Authentication Service)複数台の導入向け

プロダクトキーをバンドルファイル化します。入手したバンドルファイルをAASへ登録することにより、AASを導入したマシン(Windows OS)と、ActiveImage Protectorを使用するマシンをネットワーク接続してアクティベーションをおこないます。
またWindows OSがない場合には、Docker コンテナイメージ化されたAASを使用してアクティベーションも可能です。その場合には、コンテナイメージをロードするLinux OSへDockerをインストールする必要があります。

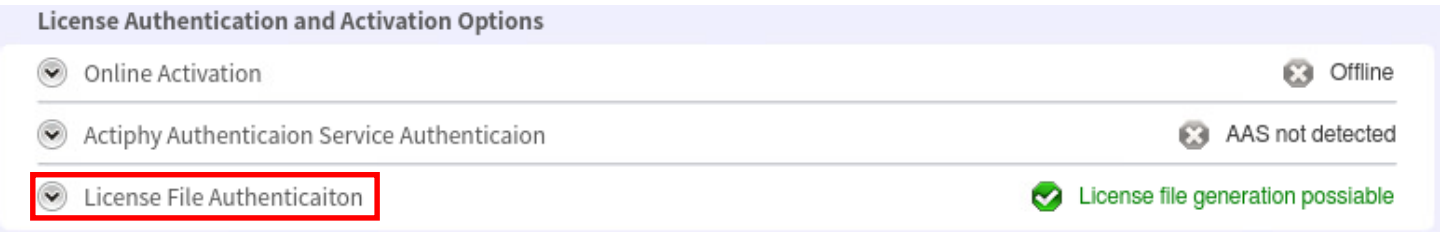
※アクティベーションできないオフライン環境へActiveImage Protector 2022 Linuxをインストールした場合、アクティベーションが完了するまではインターフェイスが英語になります。



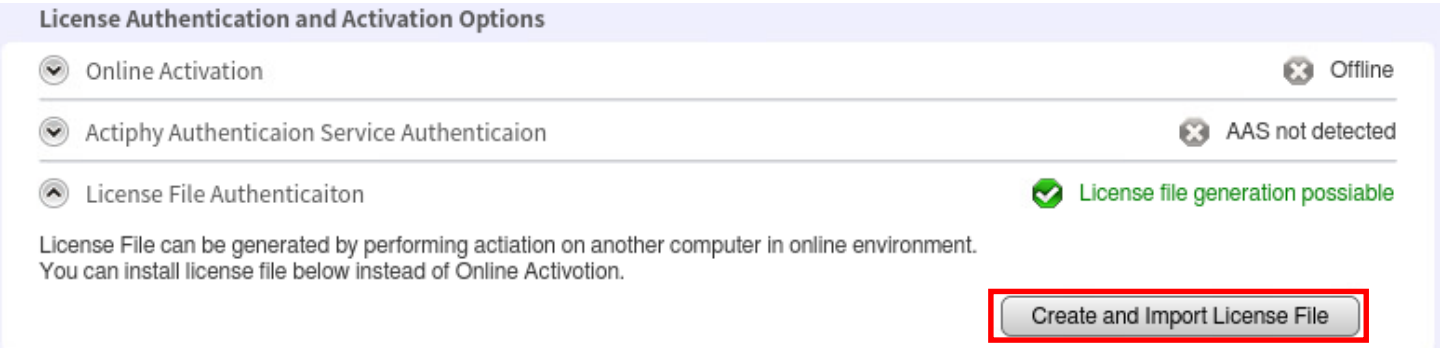
※　ライセンスファイル方式またはAAS方式どちらか片方を選択してアクティベーションをおこないます。

ライセンスファイルでのアクティベーション

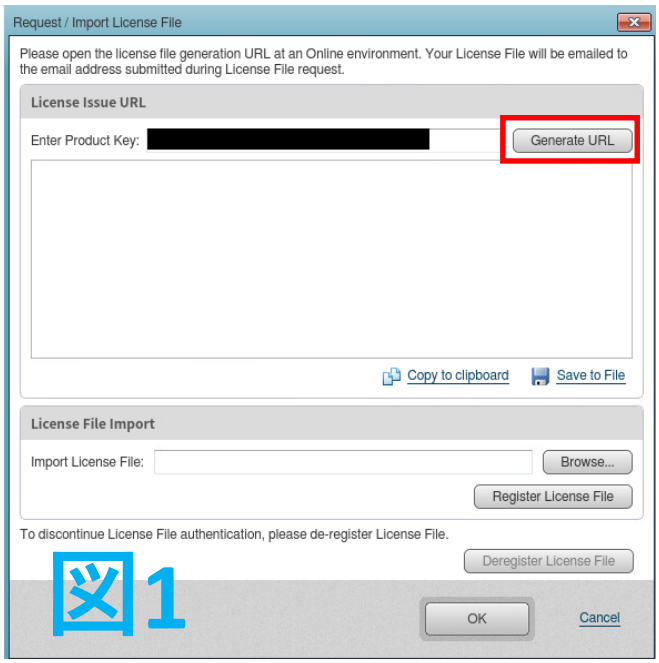
ActiveImage Protectorをインストール後 [Help] - [License] をクリックすると、下図のようにライセンス認証の画面が表示されます。



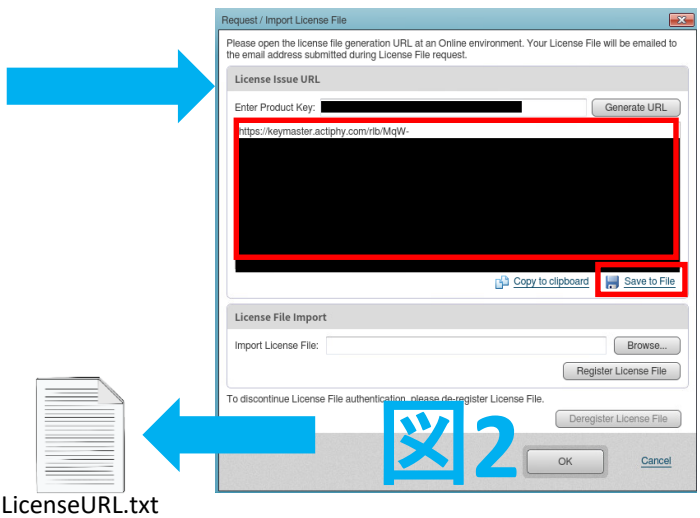
ライセンスファイルを使用してアクティベーションをおこなう場合、上図の [License File Authentication] をクリックします。



上図の [Create and Import License File] をクリックします。



製品のプロダクトキーが表示されているため、図1の赤枠内 [Generate URL] をクリックします。
すると図2のように、黒い部分にURLが表示されます。
[Save to File] をクリックすると、任意の場所にURLをテキストファイルで保存できます。そのファイルをインターネット接続しているマシンにコピーして、ブラウザからURLに接続してください。



LicenseURL.txt

URLに接続すると [ライセンスファイル申請フォーム] のサイトに接続します。

ライセンスファイルの受け取りに使用するメールアドレスを入力し、[検証！]をクリックしてください。

インストール時に使用されたActiveImage Protectorのプロダクトキー情報は、自動で取得されています。右図の赤枠内に、そのプロダクトキーのライセンス数が表示されます。1ライセンスのプロダクトキーの場合には、赤枠内に1と入力して作成します。例えば5ライセンスなど、複数ライセンスを所持している場合には、割当て数を1と入力して、5つのライセンスファイルを作成してください。

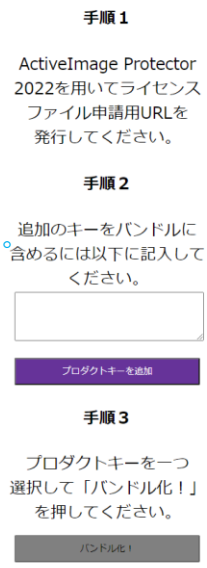


図3

※シングルライセンスのお客様は
左側の青文字部分のみをお読みください。

5ライセンスを5つのライセンスファイルにした場合の用途

5台の物理サーバーのバックアップをおこなう場合、前頁の図1と図2のように各マシンへActiveImage Protectorのインストール後、それぞれのマシンでURLを発行します。その後図3の赤枠内で1と設定して、5個のライセンスファイルを作成します。各サーバーで発行されるURLでは、そのサーバー専用のライセンスファイルを作成するため、必ずライセンスファイルはURLを発行したサーバーで使用してください。

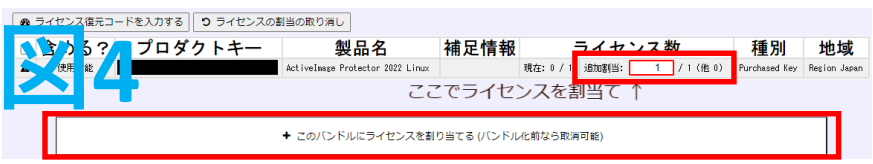


図4

割当て数を入力後、図4の [このバンドルにライセンスを割り当てる] をクリックします。

割当てが完了したら、図5の赤枠内をクリックするとバンドル対象となります。

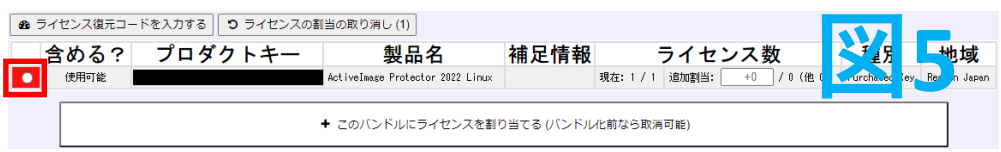
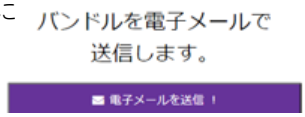


図5

ブラウザの左側の [バンドル化！] ボタンがアクティブになります。問題なければ、クリックすると確認画面が表示されるため、[OK] をクリックします。
これでバンドルファイルが作成されます。

手順４

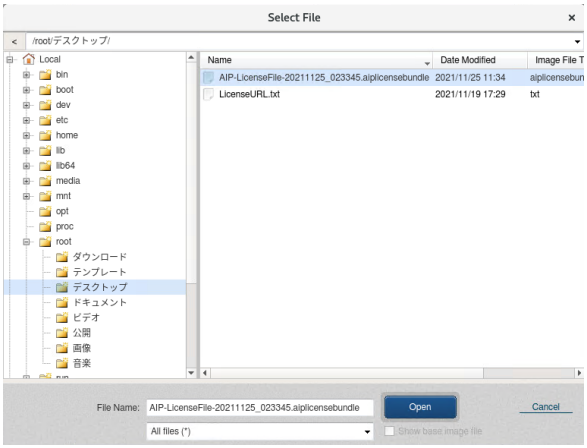
バンドル化処理が完了すると、ブラウザ左側の [電子メールを送信！] ボタンがアクティブになるため、クリックします。すると、最初の画面で設定したメールアドレスにライセンスファイルが送信されます。

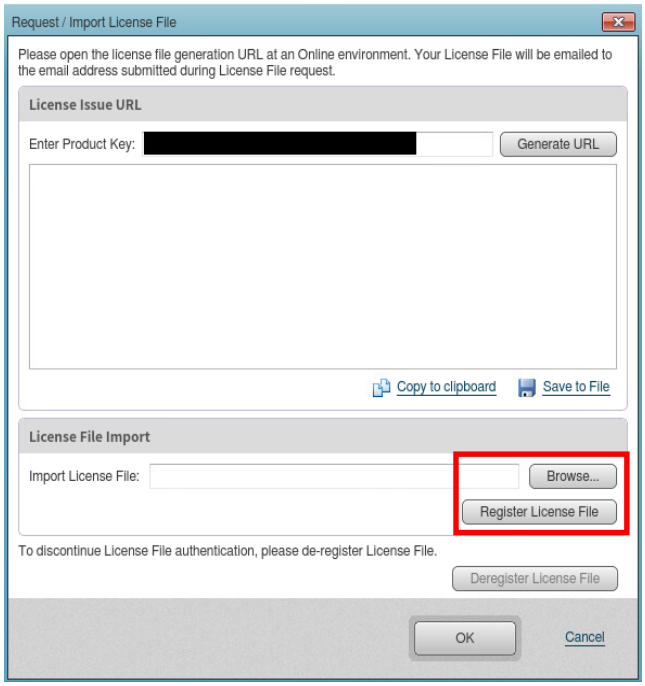


メール添付で左図のファイルが送付されるため、ActiveImage Protectorをインストールしたマシンの適当な場所にコピーしてください。

e.g.) AIP-LicenseFile-
20211118_023520.aiplicensebundle

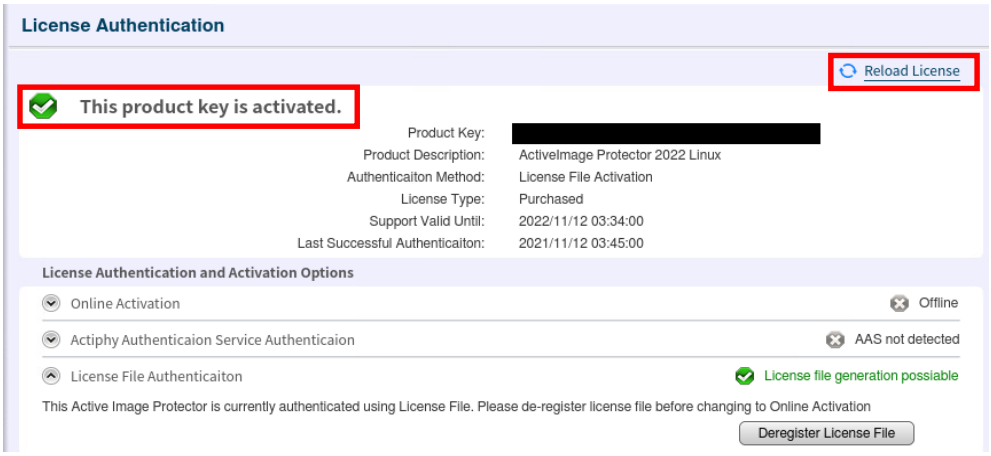
ActiveImage Protectorのコンソール [Help] – [License] から [Request / Import License File] 画面で、作成したライセンスファイルを登録します。
[Browse] から、コピーしたライセンスファイルを選択して [Register License File] をクリックします。

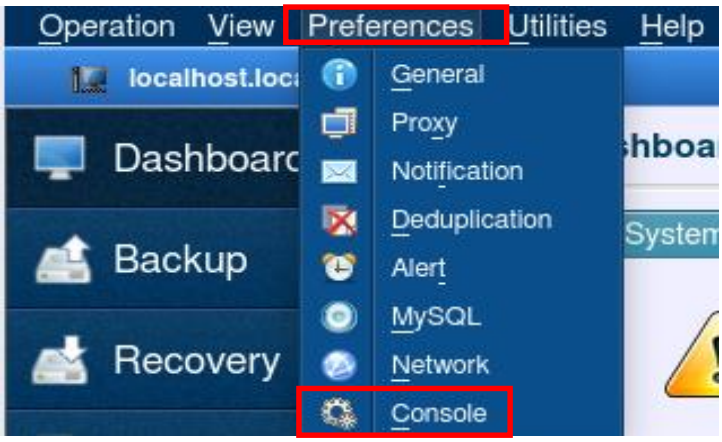




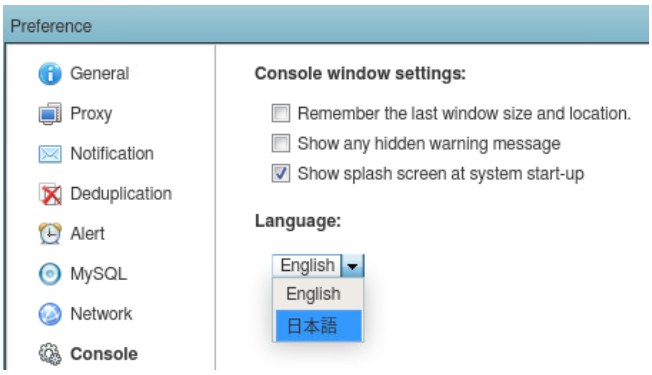
正常に登録されると左図の確認画面が表示されます。

アクティベーションが完了すると、ライセンス認証画面の赤枠内に[This product key is activated.] と表示されます。
もし表示されていない場合には、[Reload License] をクリックして確認してください。

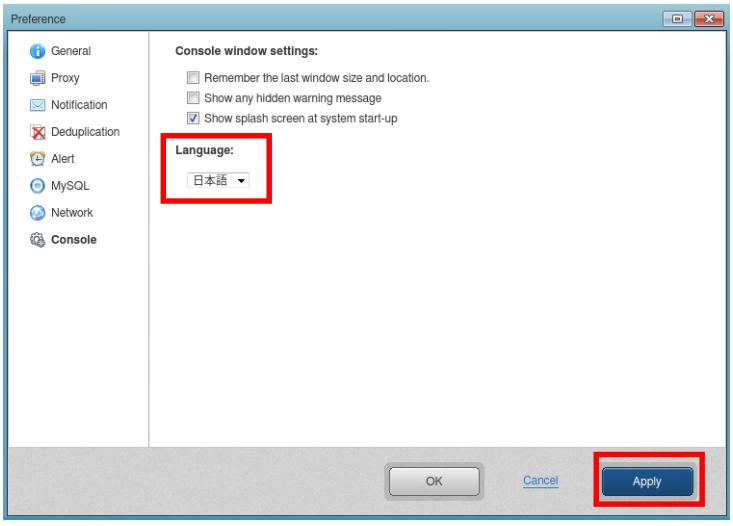




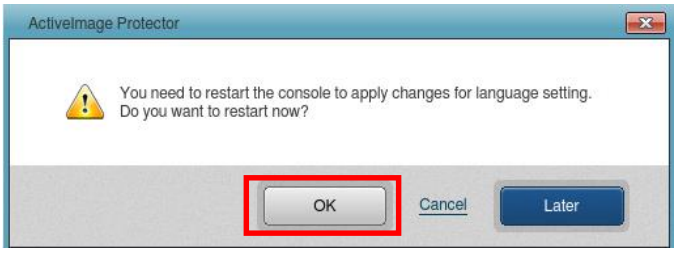
1度ActiveImage Protectorのコンソールを再起動し、[Preferences] – [Console] をクリックします。



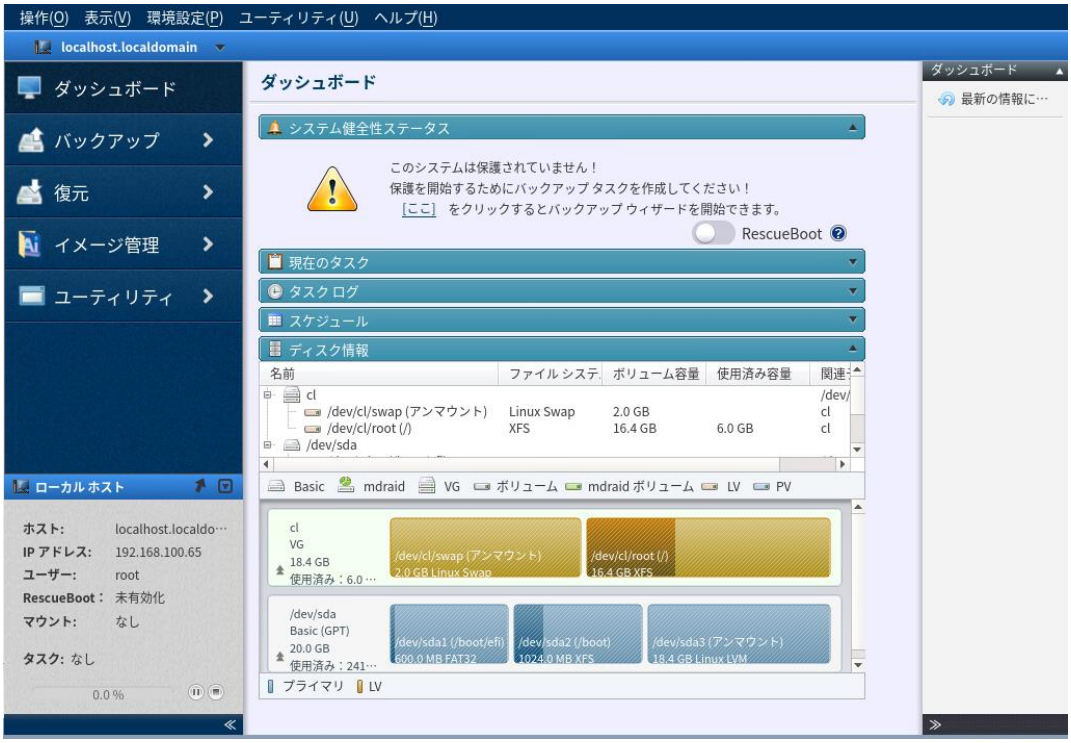
[Language] のプルダウンメニューから [日本語] が選択できるようになるため、選択します。



[Language] が [日本語] になっていることを確認して [Apply] をクリックすると、下図の確認画面が表示されます。
[OK] をクリックするとコンソールが再起動します。



インターフェイスが日本語に変更されます。



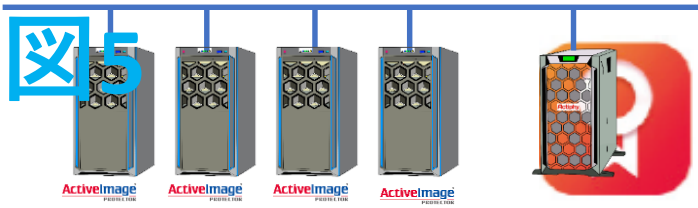
AAS(Actiphy Authentication Service)によるアクティベーション

Windows OSの用意がある場合

（Linux OSだけの環境の場合には、別紙 [AAS Docker コンテナガイド] を参照してください。）

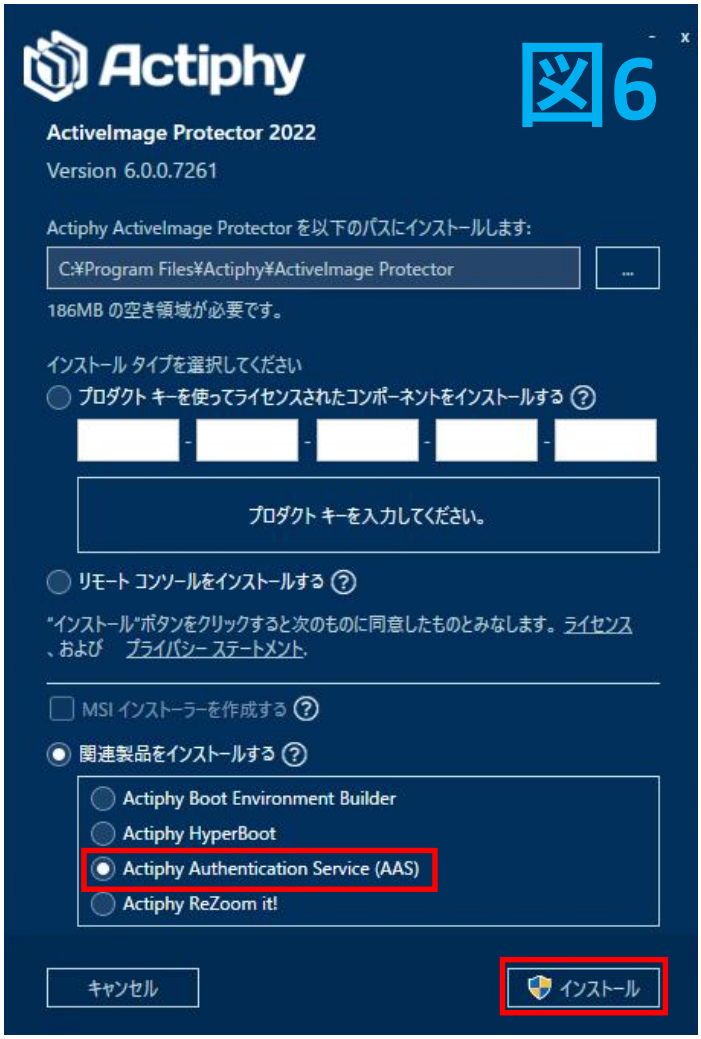
AASは、複数台のActiveImage Protectorをインストールしたマシンを、まとめて認証する場合に非常に便利です。基本構成としては図5のように、ネットワークアクセス可能な範囲にある、1台のWindowsマシンにAASをインストールし、バンドル化したプロダクトキーを登録することで、すべてのマシンのアクティベーションが完了します。AASの導入先はWindows OSに限定されています。ネットワークアクセス可能な範囲にあれば、保存先として使用しているマシンなど、別の役割のマシンでも導入は可能です。

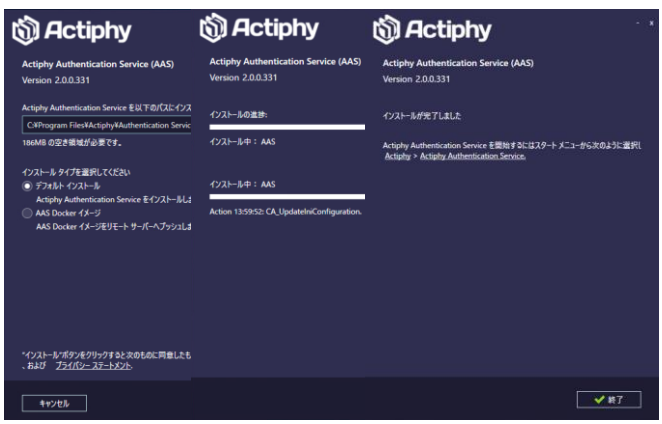
図5



AASのインストールについて、以前は別途Setupのダウンロードが必要でしたが、ActiveImage Protector 2022よりActiveImage Protectorのインストーラーに含まれています。AASのインストールには、プロダクトキーの入力は必要ありません。図6のインストーラー画面下部にある [Actiphy Authentication Service(AAS)] のラジオボタンをチェックして [インストール] をクリックしてください。以下の画面では、必ず [デフォルトインストール] を選択したまま、インストールをおこなってください。
すると、下図のようにインストールが完了します。

図6





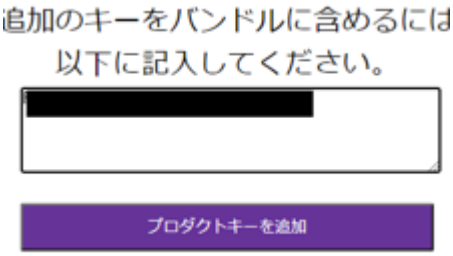
インストールが完了すると、デスクトップ上にアイコンが作成されるため、ダブルクリックしてAASを起動します。

インターネット接続をおこなえないローカルエリアネットワーク上の使用では、デフォルトの [サーバーモード] を選択したままにします。
図7に表示されるライセンスバンドルURLをクリップボードに [コピー] します。メモ帳などにペースト後、インターネット接続可能なマシン上で、ブラウザ経由でコピーしたURLへ接続をおこないます。
このURLを使用してプロダクトキーをバンドル化した場合、そのURLを発行したAAS上でのみアクティベーションが可能となります。

図7

URLに接続するとライセンスバンドル申請フォームのサイトに接続します。

バンドルファイルの受け取りに使用するメールアドレスを入力し、[検証！]をクリックしてください。

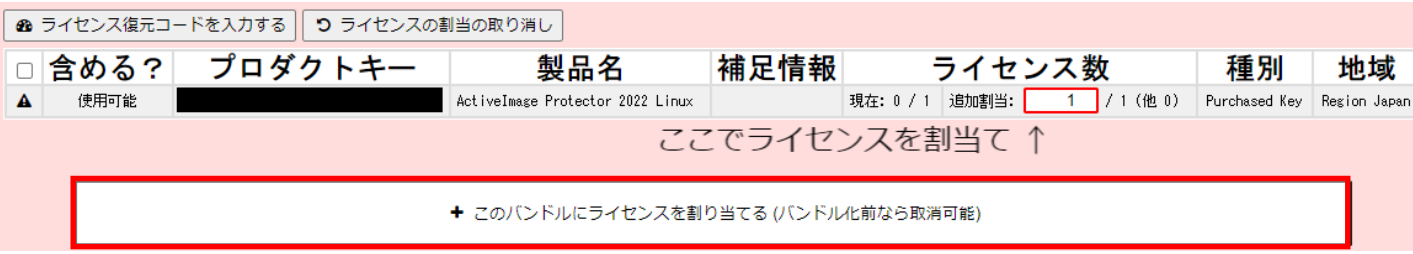


URL発行元のAASでアクティベーションしたいプロダクトキーを追加します。プロダクトキーを入力して [プロダクトキーを追加] をクリックします。

図8

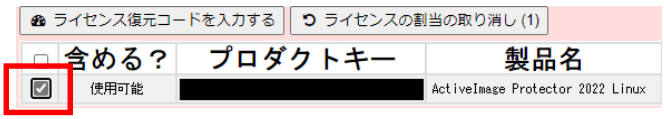
図8の赤枠内に、追加したプロダクトキーのライセンス数が表示されます。このAASでアクティベーションするライセンス数を入力してバンドル化します。異なるネットワーク環境で使用しているライセンスのアクティベーションには、別途AASが必要です。その場合、当該AASで発行するURLへ、別途接続してバンドル化をおこなう必要があります。

※合計5ライセンス所有の場合、先に2ライセンスをバンドル化してAASに登録後、残り3ライセンスも同じAASに登録するには、再度そのAASの発行したURLへ接続して、合計5ライセンスをバンドル化します。新しいバンドルファイルをAASに登録することで、5ライセンスのアクティベーションが可能になります。なお、古いバンドルファイルの使用は不可となります。



割当て数を入力後、 [このバンドルにライセンスを割り当てる] をクリックします。

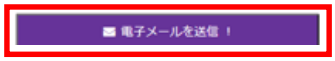
赤枠のチェックボックスにチェックを入れます。



ブラウザの左側の [バンドル化！] ボタンがアクティブになります。問題なければ、クリックすると確認画面が表示されるため、[OK] をクリックします。
これでバンドルファイルが作成されます。

手順４

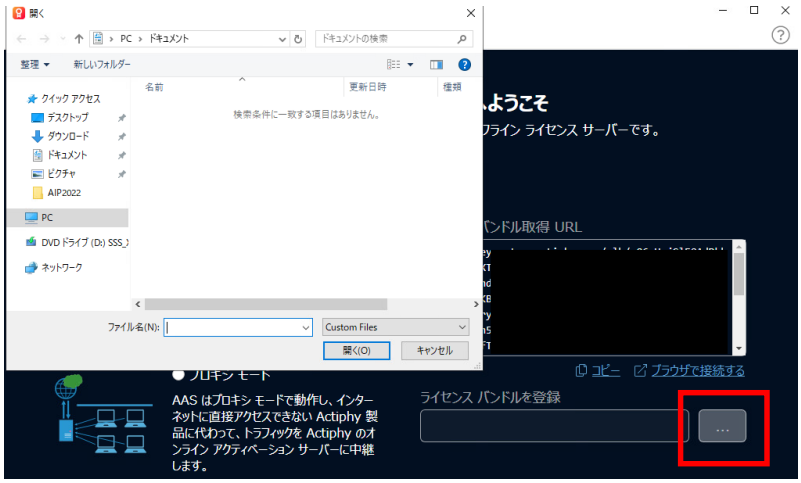
バンドルを電子メールで送信します。



[電子メールを送信！] をクリックしてバンドルファイルをメールで送信します。

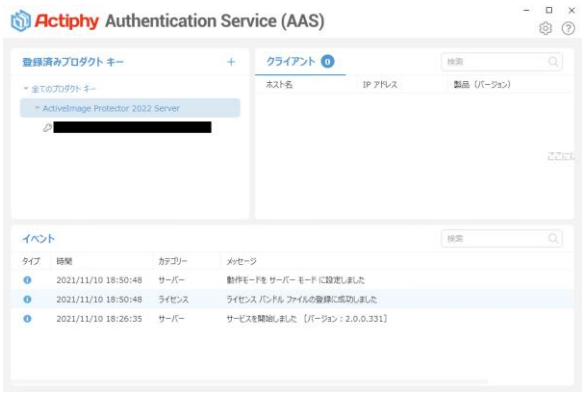
LicenseBundle.aiplicensebundle

メールで受信したバンドルファイルをAASの適当な場所にコピーします。



AASのコンソール上で、バンドルファイルを登録します。

バンドルファイルの登録が完了したら [完了] をクリックします。



AASでバンドルファイルが正常に登録されると、現在登録対象のライセンス詳細などが確認できます。

ActiveImage Protectorをインストールしたマシンのライセンス認証画面で、最初は図9のように [AAS not detected] となっています。AAS導入後しばらくしてAASを発見すると、図10のように [AAS detected] となります。多少時間がかかる場合には、コンソールのリフレッシュなどをおこなってください。
※DockerのAASは自動で見つからないため、下部に記載の方法でAASの指定をおこないます。

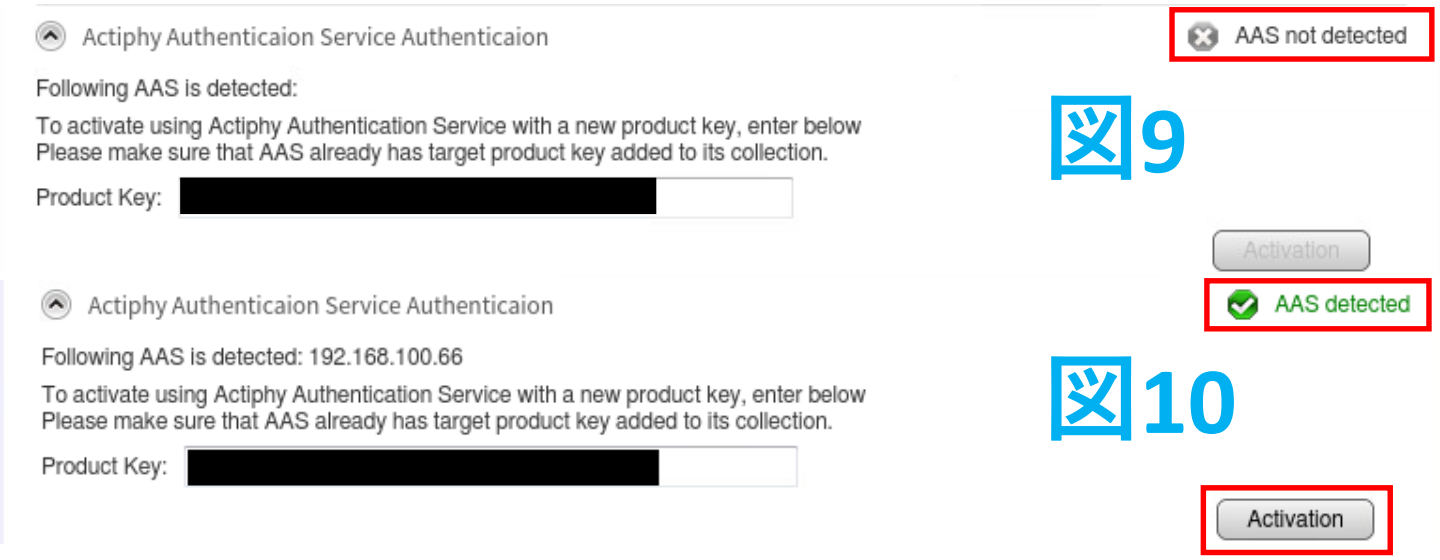
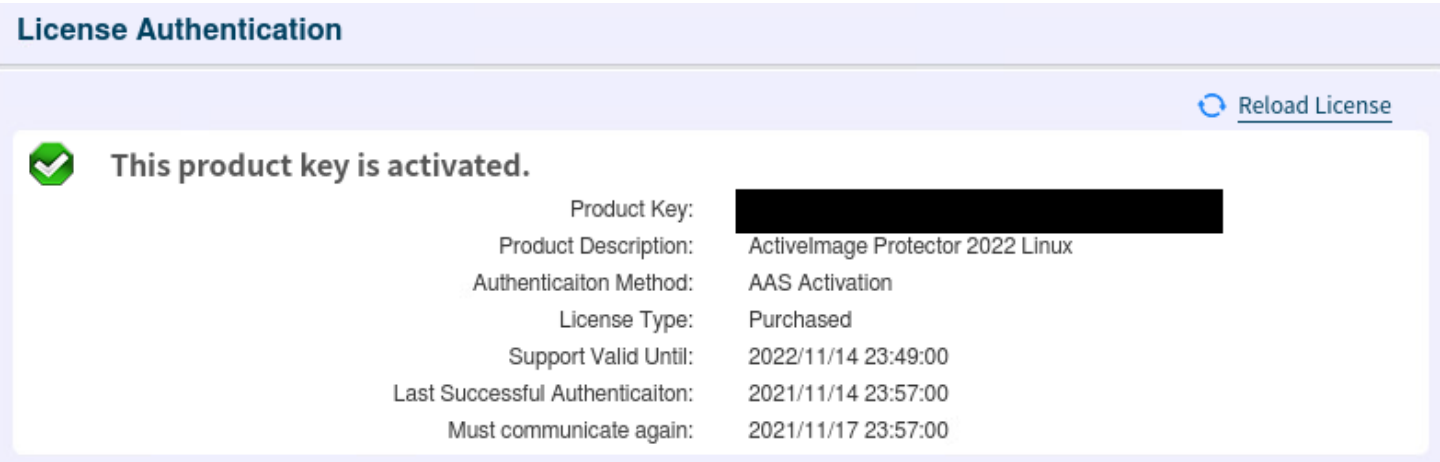


図9

図10

AASが検出されても、図10の [Activation] を押すまで、[This product key is not activated] と表記されたままの場合があります。その場合には [Activation] をクリックしてください。正常にアクティベーションされると下図のように表示が変わります。



※インターフェイスの日本語化については、P.7を参照してください。

※AASとActiveImage Protectorインストールマシンの相互通信が可能にもかかわらず、目的のAASが未検出のままの場合の対処方法として、ActiveImage Protectorインストールマシンから、コマンドラインでAASをIP指定します。

ActiveImage Protectorをインストールしているマシンのターミナルを起動します。
ActiveImage Protectorをインストールしているフォルダに移動して、AASのIPを指定します。

 # cd /opt/Actiphy
 # ./aipcontrol config AASIP <IP>(AASをインストールしているマシンのIPアドレス)

参考：
ドメイン環境の場合にはDNSマネージャーの前方参照ゾーンのドメインの中にレコード追加することにより、名前解決が可能となります。この場合、AASのIPアドレスとホスト名、完全装飾ドメイン名を設定します。

プライマリDNSへのレコード追加ではホスト名は aas-autodiscovery と設定します。

セカンダリDNSで追加レコードがおこなえない場合には、プライマリDNSに Actiphy.tech をプライマリゾーンとして追加後、上記と同様にレコード追加をおこなってください。